

土佐中・高
振興会だより 第六号

発行者 振興会会長 国見直樹
編集責任者 杉本雄一

紙面紹介

新しい動きに期待して	1
変わらぬご支援に感謝	2
広報担当(学校)から	2
連絡協議会の発足と展開	3
平成一四年度評議員会	5
二つの講演会に参加して	8

新しい動きに期待して

振興会会長 国見直樹
毎日暑い日が続きますが、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。また、日頃の振興会活動へのご協力を感謝いたします。

振興会だよりの紙面サイズを、通知表のサイズに合わせて、A四サイズに替えました。字のサイズも大きくしましたので、これまでよりも若干見やすくなったのではないかと思います。

今回は、最近の学校や振興会の動きについてお知らせいたします。まず、学校の方では、百年委員会の答申内容ができることから実施されています。情報処理能力育成のための取り組みとして計画されていた「朝の十分間読書」が実行に移

されました。また、効率的な学校運営を図るため、校務分掌の見直しが行われ、その中で広報担当部署が新設されています。このことは、学校と振興会の連携強化のためにも重要な機構改革です。ご担当の先生に寄稿を頂いております。是非、ご覧になつて下さい。

学校と振興会の連携強化という点からは、校長先生をはじめ諸先生方のご協力により、「連絡協議会」が発足し動き始めたことは画期的な改革です。この会は、学校と振興会本部役員が互い、より親密に意見や情報を交換することを目的にしていますので、会員の皆様の声を届ける場も拡大したことになります。詳しい内容については四頁をご覧ください。

例の進学講演会を、代々木ゼミナールの工藤先生をお招きして開催いたしました。国立大学の独立行政法人化の動きや、入試制度の変化など、時代の変化が急激な時期だけに、会場の学校会議室が保護者と生徒で埋め尽くされたことから、本部役員としても皆さんの関心の高さを実感しています。今後も、会員の皆様のニーズに応えられる講演会を開催する予定です。

また、九月五日(金)の午後、東大校長・佐々木毅先生が土佐高生のために来校し、講演をして下さることも決まっています。大変名譽なことと感じ入ると同時に、現職の東大校長にお越し頂くには校長先生を始め、関係者各位の相当のご尽力があつたものとお察し致します。これらの行事と体験は、子供たちに大きな教育効果をもたらすに違いありません。

最後に、来学期早々の学校予定を二つお知らせします。

生徒諸君にとつて、この夏休みは、日頃できなかったこと、積み残したことを実行できる貴重な期間でしょう。とりわけ、高三生にとっては、ほとんどのクラブで引退試合が終わり、いよいよ来るべき大学受験に向けて打ち込むべき時期です。それぞれ、身体に気を付けて自己実現のために充実した夏休みを過ごして下さい。

変わらぬご支援に感謝

学校長 池上武雄
長かった梅雨もあけて夏の暑い太陽がめぐって参りましたが、振興会の皆様にはお元気で暮らしていることとお慶び申し上げます。

一年生校長の反省

昨年四月学校長就任以来、森本・浜田両教頭先生をはじめ教職員の皆様、振興会、同窓会の多くの方々に支えられ、あつた一年が過ぎました。しかしながら、この一年を振り返ってみますと、我が身の未熟さを唯々痛感し、皆様にご迷惑ばかりをお掛けしていることを反省いたしております。

連絡協議会の発足

振興会本部役員と学校が、互いにより親密に意見や情報を交換する場として、「連絡協議会」が発足しました。準備会を経て第一回目の会合が三月二十六日、本校会議室で開催されました。学校運営に関し、振興会から補助金の見直し、校内美化の推進などが、また学校からは新校舎建設資金の同窓生募金運動などが話し合われました。

支部総会で率直な「ご意見・ご要望」

特に振興会から、新校舎建設協力金の積立予算化(本年度から五百万円を積立予定)についてご報告をいただき、有り難く心から感謝申し上げます。

協賛広告に感謝

今年も、六月二十一日香南支部を皮切りに各支部総会がスタートしました。学校といたしましては、保

支部の一元化について

新年度から学校の機構改革の一環として広報、渉外に関する業務担当者を決め、振興会支部と学校との連絡の窓口を広報担当者が一括して行うことといたしました。

広報担当から保護者の皆様へ

猛暑の続く中、振興会の皆様にはくれぐれもご自愛下さいますよう、併せて今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

協賛広告に感謝

週刊朝日六月十三日号で、シリーズ・建学の源流を訪ねて「日本の名門高校ベスト100」(私立中・高校

広報担当から保護者の皆様へ

小村 彰

新年度の機構改革の一環として、広報担当部署が新設され、二人の教頭を中心に、小村・山口・松村・千頭・島内・手島の六名で、広報に関わる業務を担当していくことにな

りました。新設の部署で、手探りの状態ですが、少しでも本校教育の発展に役立てるよう努力してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いします。

一、広報担当の活動内容

1 学校ホームページの更新

緊急連絡(休校・行事の実施など)における活用
クラブや学校行事のニュース

校務分掌(進学指導など)・クラブなどの紹介
本校入試関係情報

2 校内LANによる情報交換

連絡事項のオンライン化
学年・分掌での取り組みのオンライン化

3 振興会・同窓会との連携

連携の窓口として、学校との意志疎通が緊密に行われるよう努力します。

4 入試関係

教務部と連携を保ちながら、

学校・塾などへの説明・PRをこれまで以上に充実させていきます。

5 各種情報の収集・蓄積

卒業生も含め、広く本校に関する情報を収集し、効果的に活用できるように蓄積していきます。

二、振興会との連携について

もともと基本的な業務として、これまで各教員で分担していた支部係りを一本化し、小村・千頭で全支部を担当することになりました。支部会の日程の調整、いくつかの支部に共通する要望事項の検討・回答など、一本化によって、すこしでも事務手続きを効率化できればと考えています。

また、振興会との連携を担当する部署を明確にすることにより、保護者の方の要望を学校の運営の中に、スピーディに取り入れることも可能になると

思います。その一例が、通知票のコンピュータ打ち出し(まだまだ改善の余地はありますが)を学校として実施するについて、振興会から通知表保管用のファイルを作りたいたいのご希望をいただき、早速実施できたことです。

保護者と教員は、子どもをめぐる立場がちがいますので、考え方も違う場合もあります。しかし、子どもたちのよりよい未来を目指していきたいという思いは共通です。その思いを基盤に、より一層保護者と学校との意思の疎通が円滑に進むよう努力してまいりますので、保護者の皆さま、どうぞご協力いただけますようお願いいたします。



連絡協議会の発足と展開について

振興会副会長 山本 志雄

一、連絡協議会発足の経緯

前校長体制の時は、振興会が評議員会(支部長会三月)での各支部長より、会員からの要望をいただき、振興会本部として対応すべきものについて、学校へ訪問した時や、入学式などの会合のときに校長先生に要望をしてきました。しかしながらこの方式では、校長先生と振興会役員の話合いが中心となり、各部の先生と振興会の相談が直接出来ないの事実誤認や相互理解に欠けることもあり、そのことから、実務的・定期的な会合の設置が望まれていました。

池上校長先生体制になり、昨年の暮れに校長先生に相談しました

二、第二回連絡協議会

開催日・開催場所 平成一五年七月十日 土佐校二階会議室

(一) 学校側の提出議題(五件)

(1) 新カリキュラムの実施
四時限授業の実施

これは先生の労働時間が週四 時間を越えないために、また休日で授業時間が減少しない事を考慮したユニークな取り組みです。

朝「一分間読書」の実施

生徒、先生からのアンケートを実施し、評価をしたところ集中心力、読書量の増加など全体評価は中学生で七三・三%、高校生五五・五%、先生で八七・〇%と良好な結果であった。

(2) 校務分掌の変更

校内一部を七部に統合
各部は教務(島崎雄一)、生

所『いいことです。早速検討しましょう。』との快諾を得て、平成一五年一月二三日の連絡協議会準備会を開き、一学期に一回テーマがなくても開催、時間は一時間程度としました。出席者は学校からは校長、教頭と各部門の責任者振興会側は役員で、問題に応じて担当者も出席することでした。

二、連絡協議会の実施

右の合意に基づき、第一回・第二回連絡協議会が開催されましたので、以下、会議の概要を報告いたします。

1、第一回連絡協議会

開催日・開催場所 平成一五年三月二六日 土佐校二階会議室
出席者 学校から八名 池上校長先生、森本・浜田両教頭先生、

各部門責任者の先生方

振興会から八名 国見会長、副会長、監事、理事

議事

学校から新組織の説明

教務部、生徒部など八部門とその責任者名発表。振興会に対しては、新設広報担当部署の中の小村先生、千頭さんが各支部を統括して対応する

学校から週刊朝日に全国一

校年鑑掲載について広告などの協力依頼を受ける。同窓会とも連携して協力を約束

この週刊朝日は六月に既に発行されており、後日別途製本、発売の予定

支部総会の合同開催の推進

と支部運営の統一化について
集金や案内の送付など支部運営を担当の先生に依頼してきた支部は、支部独自で運営する方向で努力するよう、本部から働きかけることを約束

なお、学校から懇親会後の粗品や車代も廃止の方向で統一

する事や、二次会も漫然と継続する必要はないとお話がありました。

携帯について

昨年六月に保護者会で学校の統一見解が配付済み
以下、その要点を示す

a 学校は携帯を持つことは禁止していませんが、学校に持ち込むことは禁止する。

b やむなく必要な場合は、主任及び生徒部に届けて許可を得る。

【この決定は、クラブ活動や塾で遅くなる生徒を心配する保護者には十分な解答と考えます。但し、使用に際しては保護者から子供に十分な指導と監督をお願いいたします】



徒(森本亮士)、進路(三浦浩二)、特活(酒井 満)、環境(福留正仁)、図書(門田美和)、事務(細川事務長)

広報担当を新設

小村先生他4名です。振興会担当は小村先生、千頭さん(事務)です。

(3) 週刊朝日六月一三日号で本校特集 協賛広告の御礼とパンフレット化し、広報活動に有効利用する。

(4) 北村光寿君落雷事故に関する地裁判決 今後共、生徒の安全第一に努力する。

(5) 一学期始めの行事

ガーナ共和国男子高校生 三名、土佐高訪問 八月二日來高、九月五日、六日生徒宅でホームステイ

この件については保護者の協力をお願いしたいとのこと。協力できる方は積極的に森本教頭、広報担当に申し出を

お願いします。

ガーナ高校生のホームステイはポティーラングイジ(身ぶり、手ぶり)でも通じるそうですし、公用語は英語ですので子供に通訳させるつもりで協力をお願いします。

東大学長佐々木毅先生の特別講演 九月五日(金)午後高校生を対象

(二) 振興会側の提出議題(四件)

(1) 早朝補習を月曜午後に変更の件 クラブ活動と重なる。生徒の意見として朝がよいという意見が多数であった。

(2) 地震対策 二一五年を目標に改築を考えているが、年一回の避難訓練、出来るだけ早い時期の耐震調査の実施を計画している。

(3) TSLの教員特別研修の評

価 予備校への授業見学研修は有効であり、希望する先生が増加している。

(4) 百年委員会の答申内容の進捗状況 朝読書、広報の設置、教員の仕事の効率化、公務文書の減少化、ホームページの充実、校内ラン整備などが報告された。

ホームページの充実の効果で、台風時の問い合わせが格段に減少した。今後とも緊急時などに有用だと考える。

三、連絡協議会への期待

予定時間を二〇分程超過する会議の中で、色々な討議が率直に出来たと思いました。尚、これから地区振興会で校長先生を始め、各先生とひざ詰めで、忌憚なく話していくことで、益々学校と保護者が一体となつて、子供の充実した学生生活が達成されるよう努力して行

きましよう。

最後に、これからも連絡協議会が開かれる予定ですので、保護者各位につきましては、支部長、本部役員に要望をいただければ、この連絡協議会で議論し、良い方向へ持っていきたいと思えます。この会が生徒、学校、振興会(保護者)の風通しのよい運営に寄与し、土佐校が輝きを持って発展して頂きたいと希望します。

平成十四年度 評議員 会

開催日時 平成十五年三月二五日 午後二時～三時半

開催場所 学校二階会議室

出席者 池上校長先生・森本教頭先生・浜田教頭先生・佐藤事務長

事務局 千頭 裕

振興会役員 会長以下十名

評議員 二九名

【議事】

一、国見会長挨拶

二、校長挨拶

三、平成一四年度決算案報告 (千頭氏)

四、平成一五年度予算案説明 (千頭氏)

五、補足説明

(国見会長)

1 平成一四年度と同一五年度の予算額の大きな違いとその理由

本来学校がまかなうもの(図書費、遠征費、旅費の補助)を振興会予算からはずし、それを他への使途(新校舎設立協力金)とした。とりあえず平成十五年度から五 万円の予算を組むが、毎年この金額に限らない。情勢に応じて対応。

土佐中・高八 年の長い歴史において、その時々、その時代時代の振興会は出来る範囲で学校教育の振興に努力してきたは

ず。我々、今の執行部もそれを受け継ぐ形で予算を組んできたが、平成一四年四月に池上新校長が就任されたのをきっかけに、学校と話し合いを持ち、振興会の会計の見直しを図り、この度原点に戻つて予算を組立て直した

2 新校舎建設協力金の設置理由

受益者負担という考え方からすると異存も出て来るだろうが、将来OBとなり土佐校の発展に寄与する立場に立つ子供たちの現役保護者が、土佐校の発展に今出来ることをやってみようとするならば、近い将来必ずやらなければならぬ新校舎設立に、わずかでも(年間五 万円ならば、一ヶ月に一人あたり、二五二円)協力しようという気持ちを表すものである。

(杉本副会長)

振興会からも参加した百年委員会との諮問内容を実現するため、振興会としても新校舎設立協力

金を予算化する必要性がある。

(佐藤事務長)

新校舎設立には五 億円はかかる。そのうち、半分は自己資金を作りたいと考えている。振興会が五 万円をそのために予算化して下さることは、大変有り難い。

今年度、今までの援助費を六 万円ほど削除されたが、過去経営が苦しかった時代に振興会に助けていただいた経費であるので、黒字になった現在、本来の学校経費としても問題はないと、個人的に考えている。

六、平成一四年度決算・平成一五年度予算案の承認決議

七、支部総会合同開催継続について

(総務・北村副会長)

合同開催を行った支部からの感想より、概ね好評を得たのではない。合同開催のメリットは、先生の時間的負担の軽減と小規模支部会員の負担金軽減があげ

られる。デメリットとしては、先生と保護者が懇談する時間が減った(一宮・泉野)こと、開催地が遠くなった分、出席者数が減った(窪川)こと。

(国見会長)

現在のところ支部の統合までは考えてないが、来年度も同じ組み合わせで合同開催をお願いします。

八、来年度も同じ組み合わせで合同開催することを拍手で、承認

(国見会長)

保護者と先生が連携できるように、定期的な話し合いの場を持ちたいという、かねてよりの希望を池上校長が快諾してくださつた。すでに、準備会が開催され、そこで、この度の予算案の骨子が話し合われた。次回は三月二六日に予定されているが、テーマは特にない。議題がなくても、とにかく保護者と先生が集まって話し

金いをする中で、振興会が担う役

割が明確になり、学校と振興会が連携し、より良い教育環境をつくる事が出来ると思う。この連絡協議会には、振興会からは役員一名が出席。学校からは、校長、両教頭をはじめ、色々な先生方が出席されることになる。

一〇、各委員会からの報告

(進学・山本副会長)

進学セミナーは、土佐高四五回生の医学博士、田邊敬貴愛媛大医学部神経精神医学教授を講師として、七月四日、新阪急ホテルで開催。演題「坂の上の雲」。詳細は、振興会だより第四号に掲載。来年度は、入試制度が変わることについての講演を予定
初年度TSL(教員研修)実施内容は振興会だより第五号に掲載。それに加え、冬休みに学習スキル研修に英・数の先生が参加。使途金は二万円。

予算は、一、五万円

(広報・杉本副会長)

振興会だよりは、入学案内号、七月、一二月と年三回発行
教職員プロフィールを六月に発行、五年に一度の発行を目標。毎年新任の先生のプロフィールを差し替える予定
百年委員会は、平成一二年に発足、同一四年に最終報告
詳細は土佐高同窓会関東支部のホームページに掲載。是非見て欲しい。
私学父母の会出席の報告
高知県の私学高校生一人に対し三〇四・一六〇円の、中学生に対し二七九・〇〇四円の助成金(国及び県からの助成金の合計額)ができることとなる。従来、四国の平均助成金額を下回っていたが、関連団体や、議員の尽力があり、今年は、その平均助成金額に並んだ。
(総務・北村副会長)

活動報告 資料提示し説明

振興会名簿の空欄希望者は、四月に子供に配布される個人票(入学時に提出した振興会名簿調査票を基本台帳とする)に空欄希望を設けているので、ご家庭で周知徹底させてほしい。振興会だより第五号でもお願いしている。新入学時の調査票にも空欄希望は明記してある。

支部長の任期と、評議員会案

内の連絡先について 振興会本部や学校からの連絡に当たり、支部長の任期がまちまちのため混乱が生まれているので、これを解消したい。意見交換の後に、任期は四月から翌年三月までとする(年度末の評議員会まで)。ただし、支部総会をもって新役員に交代する支部においては、評議員会の案内が旧役員に届いてしまつので、速やかに事務局に届けて欲しい。また、事務局も支部総会が終わ

の準備を申しあげて、問い合わせをする。

一、人事について

(国見会長)

会則第六条に「顧問を置く」となっているが、現実には顧問がない。「顧問を置くことができる」と改訂を求め、承認される。本部役員一名は全員任期をあと一年残している。三名の役員の子供さんが卒業されたが、引き続き任期を全うして頂くことになったのでご報告しておく。また、次期本部役員を心がけておいていただきたい。

二、佐藤事務長ご退任の挨拶

平成一五年三月末でご退任なされるとのご挨拶がございました。(大変お世話になりました。本部役員一同)



「11」の講演会に参加して

六月二十一日(土)午後三時から学校会議室にて振興会主催の進学講演会(演題「これからの大学入試と親の心構え」)が行われ、二〇〇名を越す保護者が参加しました。講師に代々木ゼミナールの工藤優彦先生をお招きし、講演していただきました。講演内容の要旨は下の通りです。

続いて七月四日(金)、立命館大学教授 安齋郁郎先生による講演会(土佐中高教職員組合主催)が開催されました。スプーン曲げや、トランプのマジックを演しながらの軽妙洒落な語り、保護者も子供たちも惹きつけられ、才能豊かな子供達が「なぜ騙されるのか」、「騙されないためにはどうすればよいのか」、そして「幸せに生きる」というのはどういう生き方なのかを学ぶことが

出来ました。

『これからの大学入試と親の心構え』

代々木ゼミナール西部本部長

工藤 優彦

いま、日本の教育は大きな転換期を迎えようとしています。中・高校では公立学校の「週五日制」を前提に教育内容を削減した新しい教育課程(「新課程」)に移行している一方で、「少子化」を背景とした大学の構造改革(国公立大の法人化や統廃合等)や入試制度の変更(大学生の学力低下に対する入試科目負担の増加等)などが相次いで実施されようとしています。

大学入試の現状をみると、長引く不況の影響が様々な所に顔を出しています。経済的な負担が少ない国公立大や、卒業後の就職に有利と考えられる難関私立大の人気、また確かな将来を求めて医・歯・薬・看護などの医療系や資格系学部を志望する受験生は年々増加しており、い

ずれもが入試の難化を招来して

ます。加えて、来年度からは国立大の「センター試験五教科七科目化」が控えており、人気のある大学や学部を志望する受験生はこれまで以上に学習面での努力が必要です。ところが現役生の受験結果を分析すると、進学に対する「意識」「目標」「実行」などにおいて、極めて不十分な現実が見えてきます。

その大きな原因は、日頃の学習が進路の選択や実現に直結していることに気づかず、学習と進路が別々のものとしてとらえられているためで、「学習に集中できない」「学習する意味がわからない」「進路目標が見つからない」といった状態のまま入試本番に突入し、不本意な結果に終わってしまうのです。

日本の社会自体が大きく変化しようとしている現在、これまでの大学入試の常識は必ずしも通用しません。入試の「知識」は豊富でも、ともすれば目先の情報に翻弄され

が、お子ともたその進路選択をよ

り適切なものにするためには、親の「知恵」がとても重要になります。子どもの成長は「親からの自立」を意味しますが、その自立の過程でそれぞれが役割を分担しあうことで、親も「子どもからの自立」を果たすことが大切ではないでしょうか。

暑中お見舞い申し上げます



振興会 本部役員一同

編集後記

第六号を作成するに当たり、少子化・県の教育改革・私学助成金など視点を広げて取材をしましたが、勉強不足と紙面の関係で掲載できなかったのが残念です。